

2001.11.19

化学物質と環境円卓会議

後藤 敏彦

(環境監査研究会代表幹事)

第1回会合(平成13年12月3日)についてはISO/TC207 WG4(環境コミュニケーション規格)のエキスパートとしてデンマーク・ビルンでの会議と期日が重複しており欠席します。これまでの活動、意見等については下記のとおりです。

記**1. これまで取り組んできたこと**

- 1) 市民活動に入る前は、大手損保勤務で、主として石油・石油化学・化学工業の保険設計、リスクマネジメントに係っていた。
- 2) P R T R法について
 - ① 市民案策定の中心となって骨子その他をまとめ、結果的に野党案策定に寄与した。
 - ② 環境庁のP R T R技術検討会委員にNGOとして参加。
 - ③ 中央環境審議会環境保健部会に参考人として意見陳述。
 - ④ OECD P R T R国際会議に日本のNGOの代表格として参加、論文提出するとともに、NGOアピール策定に参画。合せて、在日米国大使館の協力を得て、「U S T R Iセミナー」を開催。
 - ⑤ 政省令のための経済産業省・産業構造審議会・化学・バイオ部会リスク管理小委員会委員
- 3) 東京都「リスクコミュニケーションのあり方検討会」平成13年7月からはじまったこの検討会の委員。
- 4) 滋賀県は数年前から県立大学安野教授を座長とする滋賀県環境リスク検討委員会を立ち上げ運営しており、当初から委員として参加。昨年来リスクコミュニケーションに取り組んでいる。本年度は「化学物質による環境リスク対策のとりまとめ」というリスクコミュニケーションを中心とした報告書を作成中。
- 5) その他
 - ① 環境省の環境カウンセラー登録制度創設時の検討委員会委員として創設に係り、現在も審査委員等で協力。
 - ② 化学物質にかぎらないが、ISOのエキスパートとして環境コミュニケーション規格策定にかかわっている。
 - ③ 市民立法機構運営委員として廃棄物関係の法改正運動に取り組んでいる。

2. 将来、力を入れていきたいこと

- 1) 情報公開の推進
具体的には、環境報告書の推進や、情報加工発信するデータベースの構築に寄与していく。
- 2) 情報解釈エージェンシー(ファシリテーター)について社会的仕組づくりに寄与していく。
具体的には、環境カウンセラー制度の活用等によるコミュニケーション支援の仕組づくり。
- 3) 化学物質管理法(仮称)や、廃棄物関係の法改正について市民案策定に関与していく。
等々。

3. 日頃、不満に思っていること

多々あるが、ポジティブに考え循環社会・持続可能な社会の構築に貢献していきたい・

以上